

.....編集後記.....

◆8-9月号と特集が続きましたが、今月は依頼稿を中心に構成した通常号です。筑波大学の梶原氏、大阪大学の増田氏、極地研究所の矢内氏ほかご寄稿頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。表紙とグラビアには、矢内氏の稿に合わせて南極を取り上げると共に、宇宙開発事業団と資源観測解析センターからお借りしたJERS-1関連の写真を掲載しました。

◆今月はこの欄に余裕があるので、筆者が携わってきた3年半の編集経過を少し書いておきましょう。

◆1953年の発刊以来40年近い歴史を持つ本誌は、多数の購読者や国内外の関係機関・図書館等に行きわたっており、当所のいわば“看板”の役割を果たしてきました。幅広い読者の要望は多岐にわたり、また本誌に対する評価も様々であったようです。ですから、1989年春編集の役割が回って来た時は、大変な事になったものだと緊張するとともに、多少なりとも良い雑誌にするにはどうしたらよいか編者の立場から調べて見ました。当時は、企画・編集の任務分担や印刷の体裁にいくつかの不備があり、まずこれらを改め見やすい雑誌をつくる事から始めました。例えば、編集委員会の構成や当所の住所の掲載、それぞれの記事の頭に誌名・号・頁を印刷し、著者の所属や住所を明記する事、カンマとピリオドの採用などもこの頃行った改訂です。いずれも当り前の事ですが、これらは何年か前に行った読者へのアンケート結果を見直し、その要望に遅ればせなが

ら答えたものです。誌面に編集結果が表れるようになったのは同年12月号のIGC特集からでした。

◆この間編集に当たって心がけてきた事は、小川前委員長の前所長就任挨拶（本誌1991年8月号）にあるように、広範な分野をカバーする開かれた性格のしかも見やすい雑誌にする事でした。このため、表紙とグラビアの写真の選択やレイアウト、原稿やゲラのチェックに注意を払うのはむろん、各分野の専門家の方々にも寄稿をお願いしてきました。幸いにして当初の目標はかなり達成されたと思いますが、それは企画・編集・寄稿を通じて協力して下さった方々のおかげなのです。特集の中では、「石材」（1991年5、7月号；石原前所長企画）、「天然記念物」（1992年5-6月号；石原前所長企画）および「地震と地盤」（1990年8月号；筆者企画）が特に好評だった事がバックナンバーの販売実績にも表われています。また、購読者の数も増えつつあります。

◆しかし、月刊誌を維持し発展させることは簡単ではなく、個人の力にも限界があります。編集実務担当者として微力は尽してきたつもりですが、本誌が現状でよいと言わなければ到底ありません。今後の発展のためにはより総合的な取り組みが必要です。

◆最後に、身内ながら、事務局である広報係がこの間に果してきた役割は非常に大きかった事を指摘し、その努力に拍手を送りたいと思います。

(副委員長 佐藤興平 記)

地質ニュース編集委員会

委員長：佐藤壮郎

副委員長：佐藤興平・磯部一洋

幹事：宮崎光旗・奥村公男

委員：柴田賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・

渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局：総務部業務課広報係（山口秀樹・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース 第458号 1992年10月号  
定価 ¥ 770 千実費

1992年10月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所  
林久雄  
株式会社実業公報社  
東京都千代田区九段南4の2の12  
〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1992 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。